

## 第 73 回抗菌薬適正使用生涯教育セミナー 「格物致知：生涯教育」

年次テーマ：適正使用の流儀：Going David!

今回の第 72 回日本化学療法学会西日本支部総会（第 94 回日本感染症学会西日本地方会  
学術集会との合同開催）のテーマ「格物致知」は、“物事の本質をよく理解し、自分の知識  
を極限まで深めること”を意味するそうです。

表面的解釈では、この格言は“自分はこの事象の因果や背景を正しく理解できた”と自認  
することを前提としているように思われます。

しかし我々は、自分の考え方を支持する経験をいくら沢山積んでも、“自分の理解が正しい”ことを確認（≒証明）することはできません。なぜなら、自分の考えを否定する所見が一つでもあれば、その考えは覆ってしまうからです。即ち、人間が確認できることは、自分の考え方が”正しい”ではなく“間違っていた”と言うことだけなのです。とは言え、間違っていた、ということ自認できれば、そこを修正することで自分の理解が一段階上のレベルに到達することになり、「物事の本質をよりよく理解する」（格物）という状態に自分を進めることができます。修正した上で、更に自分の誤りを見つけ、再び修正する、ということを繰り返して行くと、おそらく段々と真理に近づいて行きます（致知）。自分はこれで良いと思うが、もしかすると誤っているところがあるかも知れない、という健全な猜疑心を持つことが真の知性ではないでしょうか。

抗菌化学療法の意思決定と、その結果の解釈には多様な考え方や解釈があるため、抗菌薬適正使用は「真」を見つけるのが簡単ではない命題です。しかし、経験を積みながら、積極的に自分の修正点を見つけようとするにより、less wrong（誤りがより少ない）になって行く生涯学習を継続することができると思います。

本日のセミナーでも、自分のこれまでの理解では「おや？」とか、「あれ？」と思うことがあれば、そこに着目してみてください。そして、「そうだそうだ」と頷くことができる部分には、逆に「本当にそうなのか？」と少しだけ考えてみてください。

令和 6 年 11 月 14 日

公益社団法人日本化学療法学会  
抗菌化学療法認定医認定制度審議委員会  
委員長 青木 洋介